

# 授業改善のポイント 第4学年

話題に沿って必要な事柄を集め、選択する力を付ける

書く目的や伝える相手を明確にして、取材できるようにしましょう。取材中にメモを書くときは、必要な情報を短い言葉や箇条書きで書くことを指導しておきます。

書いたメモは内容別に分類し、同じ内容ごとに小見出しを付けてまとめるようにします。まとめることで、課題設定の際に決めたテーマに合ったメモを選択できるようになります。

## 取材メモの書き方はどうなっているかな



インタビューしたことをそのまま書くのでは、ないのだな。

### 【メモを書くときのポイント】

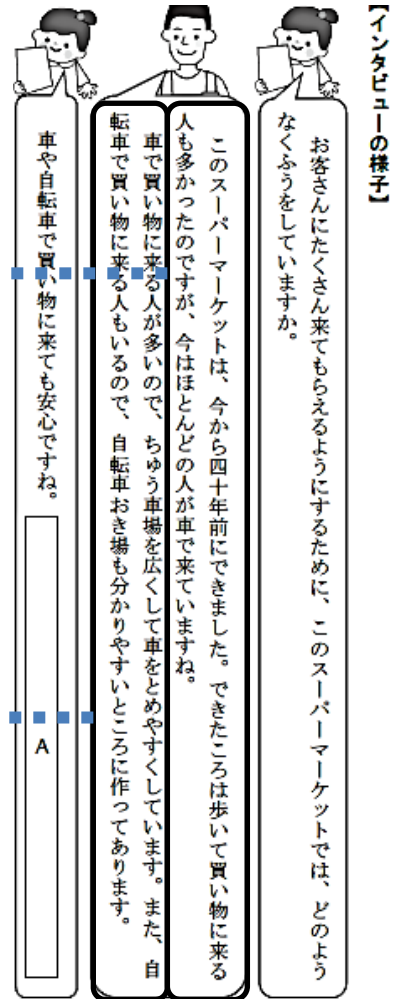
- ① 短い言葉で、箇条書きにする。
- ② 一つの事柄について一枚のカードに書く。

ウ  
百円セール  
毎週火曜日に百円セールを行っている。  
百円セールでは、いろいろな物(野菜・くだもの・魚・肉など)を百円で売っている。

ア  
《取さいメモ》  
スーパーマーケットができたころ  
今から四十年前にできた。  
歩いて買い物に来る人が多かった。

エ  
いろいろな量  
ひつような量を買えるように、同じ物でもいろいろな量で売っている。

イ  
車や自転車をおく場所  
ちゅう車場を広くして車をとめやすくしている。  
分かりやすいところに自転車置き場を作っている。



## 紹介文を書くときに必要なメモは、どれだろう



アのメモは、「お客さんにたくさん来てもらえるようにしている工夫」に合わないね。

### 【メモを整理し、選択するときのポイント】

- ① 同じ内容ごとに小見出しを付ける。
- ② 課題設定で決めたテーマに合ったものを選ぶ。

テーマを意識させて、必要なメモを選択できるようにしましょう。他教科等と関連させて、メモを書く活動を体験させ、短く書くことよさを実感できるようにすることも大切です。



## 段落の役割を理解し、文章を構成する力を付ける

組み立て表を使うと、文章全体がどんなまとまりで構成されているかが分かりやすくなります。「始め—中—終わり」の三つのまとまりを意識させ、文章全体における段落の役割を理解して、文章を構成できるようにすることが大切です。モデル文と組み立て表を比較し、文章の構成と段落の役割を確認させます。自分で紹介文を書くときの見本にできるようにしましょう。

### 組み立て表で文章の構成を確認しよう



「始め—中—終わり」の三つに分かれているね。さらに、「中」が二つに分かれるのだね。

終わり	中		始め
(4だん落目)	(3だん落目)	(2だん落目)	(1だん落目)
④まとめ お客さんにたくさん来てもらうために、車や自転車をおく場所や百円セールなどについて、お客さんのことを考えたくふうがある。	③二つ目のくふう 「百円セール」について (使ったメモ：イ)	②一つ目のくふう 車や自転車をおく場所 について (使ったメモ：イ)	①しようかいすること スーパーマーケットの「お客さんにたくさん来てもらうためのくふう」について

《組み立て表》

④	③	②	①
このように、スーパーマーケットでは、お客さんにたくさん来てもらうために、車や自転車をおく場所や百円セールなどについて、お客さんのことを考えたくふうをしています。	二つ目は、百円セールのくふうです。毎週火曜日に、百円セールを行っている。野菜いやくだもの、魚や肉などいろいろな物を百円で売っています。	一つ目は、車や自転車をおく場所のくふうです。車で来る人のためにちゅう車場を広くして車をとめやすくしています。自転車で来る人のためには、分かりやすいところに自転車おき場を作っています。	スーパーマーケットの「お客さんにたくさん来てもらうためのくふう」についてしようかいたします。

《林さんが書いたしようかい文》

#### 「終わり」の書き方

「始め」の繰り返して終わらないよう、「始め」と「中」の話題にふれて、全体をまとめるようにします。取材メモの小見出しを活用するようにするとよいです。

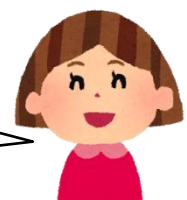
#### 「中」の書き方

具体例や根拠となる事柄をいくつか取り上げるようにします。

#### 「始め」の書き方

何を伝えたいのかが分かるように、話題の提示をします。

林さんの組み立て表と紹介文を参考にすれば、紹介文が書けそうだね。



## 資料を活用して記述する力を付ける

メモを文章化するには、文章表現のきまりを指導し、相手や目的に応じ、工夫してまとめるようにします。これまでの説明文の学習を想起させて、接続語などの言葉を加えていくとよいでしょう。

### メモの内容を文章化しよう

#### 【メモの文章化のポイント】

- ① 話題が変わったら改行し、一字下げる。
- ② 小見出しを基にして、段落の最初にその段落で伝えたい内容を一文で書く。
- ③ 文末をそろえたり、言葉を付け加えたり削ったりして、伝わりやすい文章にする。

《紹介文の一部》

ゆるいの魚を売っています。 **まず**、魚のせん門店なので、たくさんのし **まず**、市場で仕入れた新せんな魚を売って **まず**、一つ目は 売っている品物についてのくふ

《メモ》

- ・ カ
- ・ 売っている品物
- ・ 市場で仕入れた新せんな魚を売っている。
- ・ 魚のせん門店だから、スーパーなどでは売っていないたくさんのしゆるいの魚を売っている。

話題が変わった時に改行し、一字下げで書き始める。

接続語などの言葉を加えて、相手に伝わりやすいようにする。  
「一つ目は・・・」  
「はじめに・・・」  
「例えば・・・」  
「まず・・・」

文末を目的に合わせてそろえる。



メモを基に、言葉を加えたり削ったりすればいいね。

段落の最初にその段落で伝えたい内容を一文で書く。小見出しを活用する。

4学年は、15分で300字程度を書けるとよいですね。

「始め—中—終わり」の三つのまとまりを意識し書く経験を、年間の中で数回させるようにしましょう。

書くことに苦手意識のある子どもには、文字数ではなく文の数を示したり、まとまりごとに線の入った用紙を用意したりするなど、工夫しましょう。



## 目的に応じて、文章を見直す力を付ける

文章を見直す時には、見直すポイントを伝えて、まずは自分で読み直しをさせるようにします。読み手の立場になって、表現を検討できるようにすることも必要です。

### 紹介文として整った文章にしよう

#### 【見直すポイント】

- ① 一つの段落にひとまとまりのことが書かれているか。
- ② 主語と述語、修飾と被修飾の関係は明確か。
- ③ 文末表現（常体・敬体）がそろえられているか。
- ④ 漢字や助詞など、表記上の誤りはないか。

どこを見直せばいいのかな。



#### 《見直し後》

ぼくは、魚屋の「お客さんにたくさん来てもらうためのくふう」についてしようかいたします。一つ目は、売っている品物についてのくふうです。市場で仕入れた新せんな魚を売っています。魚のせん门店なので、たくさんのお客さんに魚を売っています。二つ目は、お客さんへのサービスについてのくふうです。

まずは、自分で読み直す。



次に、友達に読んでもらい、自分では気づかなかったことを指摘してもらおうにする。

#### 《見直し前》

ぼくは、魚屋の「お客さんにたくさん来てもらうためのくふう」です。一つ目は、売っている品物についてのくふうです。市場で仕入れた新せんな魚を売っています。魚のせん门店なので、たくさんのお客さんに魚を売っています。二つ目は、お客さんへのサービスについてのくふうです。

話題が変わっているのに、段落が分けられていない。

敬体と常体が混在している。

主語と述語の関係がねじれている。

### 読み手の立場になって考えながら読み直そう

「相手や目的に応じているか」、「自分の考えを明確に記述しているか」などの観点から、表現を検討できるようにしましょう。読み手の立場になって、考えながら読み直しをさせることが大切です。

低学年のころから文章を読み直す機会を作ることが必要です。繰り返し指導していきましょう。

見直す前と後の文章を比較して、見直すことよさが実感できるようにしていきましょう。

